

新たな感染症とともに ～幼稚園・認定こども園特別号～



園の再開から、1か月半あまりが経過しました。様々な制限はまだ多くありますが、園では水遊びも始まり、いつもはマスクの下に隠れている子どもたちのはじける笑顔が見られるようになりました。

7月7日に、第3回富山市立学校 新型コロナウイルス感染症対策検討会議を開催し、「幼児のマスク着用の必要性とリスク」について検討しました。その内容についてお知らせします。



論点① 幼児がマスクを着けることで生じるリスク

- ・熱がこもって熱中症になりやすい
- ・表情や顔色が見えにくいため、周囲が体調不良に気づきにくい
- ・マスクの刺激により、かえって目鼻口を触る機会が増える
- ・互いの表情が見えず、コミュニケーションへの悪影響が懸念される

日本小児科医会は、「2歳未満のマスク着用は危険」という声明の中で、「3歳以上にも強要しないことが重要」としています。

日本小児科学会も、「乳幼児のマスク着用は危険」であり、「いかなる年齢であっても、保護者や周りの大人が注意することが必要」との声明を出しました。



論点② 幼児はマスクを正しく着けられるか？

保育所を管轄する厚生労働省は、「子ども一人ひとりの発達の状況を踏まえる必要があることから、一律にマスクを着用することは求めていない」としており、富山市の保育施設でも多くの子どもたちがマスクを着けずに活動しています。幼児のマスクについての対応は国内でも統一されていない状況にあります。

そもそも、幼児は正しくマスクを着けているのでしょうか。

右の表は、市内の2つの幼稚園で、正しいマスクの着け方を指導した前後での装着率の変化を表したものです。

指導の有無に関わらず、半数以上の園児が正しくマスクを装着できておらず、指導後も改善は見られませんでした。

また、しきりにマスクや鼻を触る様子が見られ、むしろ感染リスクを高めてしまうことが懸念されました。

【保健指導による正しいマスクの装着率の変化】

観察対象	指導前	指導後
幼稚園A 年長	12.5%	12.5%
年少	55.6%	30.0%
幼稚園B 年長	40.0%	50.0%
年少	50.0%	25.0%

(指導内容)

・マスクは鼻と口の両方を覆う。

・着用中・着脱時は、マスクの表面は触らない。



論点③ 幼児は感染しづらく、重症化しづらく、拡大しづらい

新型コロナウイルス感染症は、成人と比較して幼児では、「感染しづらく、かかっても無症状か軽症で済むことがほとんどで、感染が広がりづらい」ことが分かっています。

最近の報道にもあるように、時に乳幼児でもクラスター（集団感染）が起きることがあります。しかし、それは世界的に見てもまれな出来事で、論点①で挙げたリスクの方が、より大きな問題です。

今後、幼稚園でも感染者が散発する可能性はありますが、このウイルスの特性を理解し、慌てずに対応していく必要があります。



「園内ではマスクを着用しないこと」を推奨します

幼児では、マスクを正しく着けることが難しいため、「マスクを着けていても、感染の広がりを予防する効果が期待できない」「マスクを着けることで生じるリスクが高い」ことから、本検討会議では園内でマスクを着用しないことを推奨します。

保護者の方の判断により、マスクの着用を継続されるお子さんについては、これまでどおり活動中の様子を慎重に確認いたします。熱中症のリスクがあると判断した場合は、幼稚園教諭から、マスクを外すようお子さんに声をかける場面もありますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

今後も、手洗いや消毒等、マスク以外の感染対策や保健指導に取り組んでまいります。



アンケートご協力をお願い

保護者の方から見たマスク着用の実情やご意見を直接うかがいたく、アンケート調査を行うこととしました。今後の感染症対策・分かりやすい情報提供のために活かしたいと考えています。多くの方にご協力いただけますよう、よろしく願いいたします。

データは、本検討会議委員 高崎（富山大学小児科医師）が管理します。

なお、アンケートによって、個人が特定されることはありません。



左の QR コードからお答えください。

アンケートは無記名で、所要時間は約 2 分です。

このリーフレットの内容については、必要に応じて改定することもあります。

【事務局】富山県教育委員会 学校保健課(TEL 443-2136)